

令和4年度教育研究活動報告書

氏名	津村 怜花	所属	経済情報学部経済情報学科
学位	博士（経営学）	職位	准教授
専門分野	会計学		

I 教育活動	
本年度担当科目	
	授業科目
学部	財務会計論、会計学概論、専門演習Ⅰa/Ⅰb、専門演習Ⅱa/Ⅱb、教育実習、教育実習事前・事後指導
大学院	研究演習Ⅰ・Ⅱ、簿記論特論、財務会計特論
II 研究活動	
現在の研究テーマ（3つまで）	
（1）我が国における西洋簿記導入過程の研究	
（2）会計システムの機能に関する歴史的研究	
本年度を含む過去3年間の研究業績 R4・R3・R2	
R3	〈論文〉「コロナ禍におけるオンライン合同セミナーの可能性」『教職センター紀要』（尾道市立大学）第3号、92-101頁（共著）
R1以前の主な研究業績	
（1）	〈論文〉日本の会計記録制度としての伝票会計システムの発生と展開『国民経済雑誌』第214巻第2号、59-74頁、2016年（共著）
（2）	〈論文〉国立銀行の設立と銀行簿記：シャンド・システムの形成過程に関する一考察『日本簿記学会年報』第31号、29-37頁、2016年（査読付き、単著）
（3）	〈論文〉福沢による西洋簿記現地化の試み『企業会計』（特集 福沢諭吉の会計学：『帳合之法』と近代日本の幕開け）第68巻第3号、304-312頁、2016年3月（単著）
（4）	〈論文〉森島修太郎に見るアメリカ簿記書の影響『日本簿記学会年報』第30号、59-67頁、2015年（査読付き、単著）
（5）	〈論文〉『馬耳蘇氏記簿法』および『馬耳蘇氏複式記簿法』に関する一考察『日本簿記学会年報』第25号、49-57頁、2010年（査読付き、単著）（日本簿記学会奨励賞）
（6）	〈論文〉国立銀行の設立と『銀行簿記精法』シャンド・システム形成過程に関する一考察『日本簿記学会年報』第31号、29-37頁、2016年（査読付き、単著）（第31回全国大会 統一論題報告）
（7）	〈学会発表〉わが国における女性会計学者の現状と課題 日本会計研究学会スタディ・グループ報告、2015・2016年（共同）
（8）	〈著書〉会計研究者として活躍する女性たち 輝ける未来に向けて（部分執筆・共著）（中央経済社）、2017年
（9）	〈論文〉日本の会計記録制度としての伝票会計システムの発生と展開『国民経済雑誌』第214巻第2号（神戸大学）、59-74頁、2016年（共著）
（10）	〈論文〉日本における中小企業会計史『会計』第195巻第2号（森山書店）、167-179頁、2017年（共著、日本会計研究学会統一論題報告）
学会、所属団体における活動（本年度を含む過去3年間の研究業績） R2・R3・R4	
所属学会・所属団体 役職等と任期	
日本簿記学会会員、日本簿記学会会員、日本会計史学会会員および財務担当幹事（～R1年9月） 監事（R1年9月～R4年9月再任）	
IV 社会活動	
1. 学外活動（本年度1年間の活動状況）	
（1）学会活動：日本会計史学会会員兼監事、日本簿記学会・日本会計研究学会会員	
（2）学会活動：日本簿記学会関西支部会を主催	